

発達 の 段階 に応じた授業づくりの 視点

「発達の段階一覧表」を踏まえた実態把握

Before



児童生徒の日常の様子や道徳性をどのように捉えれば、授業に生かすことができるかな。

「発達の段階一覧表」を踏まえて、指導する **児童生徒の道徳性の発達を客観的に捉えたり**、**一人一人の道徳性の発達を系統的に捉えたり**しましょう。ねらいとする道徳的価値に対する児童生徒の見方や考え方を、具体的に把握することができますよ。



例) 小学校6学年 内容項目「正直, 誠実」の実態把握

< 「発達の段階一覧表」より一部抜粋 >

中学年	高学年	中学校
<ul style="list-style-type: none"> 自分の損得が道徳判断になったり、身近な他人から「よい子」と評価されることに価値があると考えたりするようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自律的な態度が発達し、自分の行為を自分の判断で決定しようとするに伴い、責任感が強くなり批判的な能力も備わってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自我に目覚め、自分の判断や意志で生きていこうとする自律への意欲が高まるとともに、人間としての生き方についての関心が高まってくる。
他律的な考え方		自律的な考え方
<ul style="list-style-type: none"> 人の考え方や感じ方が自分と同様であると思いがちになる。 相手の気持ちを察したり、より深く理解したりすることができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自他を客観的に捉えることができるようになる。 相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 客観的事実と自意識の違いに悩むようになる。 社会通念としての規範やこれまでの自分の価値観を捉え直すことができるようになる。
主観的な見方		客観的な見方

児童生徒の道徳性の発達を客観的に捉える

正しいと分かっているにもかかわらず行動できない児童もいるなあ。**自他をより客観的に捉えられる段階**だからこそ、友達や人の目を気にして、正しいことができないのかもしれない。

正しいことができないときの気持ちを十分に共感させ、道徳的価値に対する**問題意識**を持たせたい。

一人一人の道徳性の発達を系統的に捉える

他人に流されない児童は、**自律への意欲が高まっている中学生の発達の段階に近い**から、自分で決めたことをやり遂げることができるのかもしれない。

中学生の発達の段階に近い児童の発言を生かして、自分にうそをつかずに、明るく生きることのように気付かせたい。

After

「発達の段階一覧表」を踏まえて実態を把握することで、児童生徒の見方や考え方を生かして問題意識を持たせること、授業で生かしたい発言を具体的に想定することができます。

